ちょっと気になるまち
岐阜 みずほ
mizuho

# ようこそ小簾紅園（おずこうえん）へ！和宮公園を案内します

昭和４年 和宮の遺跡 小簾紅園が完成しました。
初夏の新緑、秋の紅葉はもとより四季それぞれの美しさが味わえる公園となり、
中山道を旅する人も、小簾紅園を訪れるようになりました。
園内にある主な記念碑を紹介します。

# ようこそ小簾紅園（おずこうえん）へ！和宮公園を案内します

紅園の中央にあるのが主碑です。
皇女和宮が文久元年（1861）10月26日、呂久（ろく）川を渡られた折に、対岸に色鮮やかに紅葉する楓をご覧になり、ご自身の心情を重ねられて

おちてゆく　身と知りながら　もみぢ葉の
人なつかしく　こがれこそすれ

と詠われました。
この歌が刻まれた主碑は、東伏見宮妃殿下（ひがしふしみのみやひ）の染筆をお願いし、飛騨の名工　立田万年（たつたまんねん）が完成させたものです。主碑の傍らには宮様ゆかりの楓が植えられました。現在の楓は、昭和８年４月に東伏見宮妃殿下が御植樹されたものです。

# ようこそ小簾紅園（おずこうえん）へ！和宮公園を案内します

副碑には、遺跡造営の経緯や願いが記されています。
前段の部分は、宮様が降嫁する自らの思いを、美しく紅葉する楓に寄せて詩を詠われたことを紹介しています。
中段では降嫁の歴史的な背景が書かれ、後段では建碑の願いが書かれています。
撰文は下田歌子　書は棚橋絢子です。
岐阜県とかかわりが深いこの二人は、明治から大正にかけて、皇族や貴族の女子教育をはじめ、日本の女子教育の推進と発展に活躍しました。

ちょっと気になるまち 岐阜 みずほ mizuho

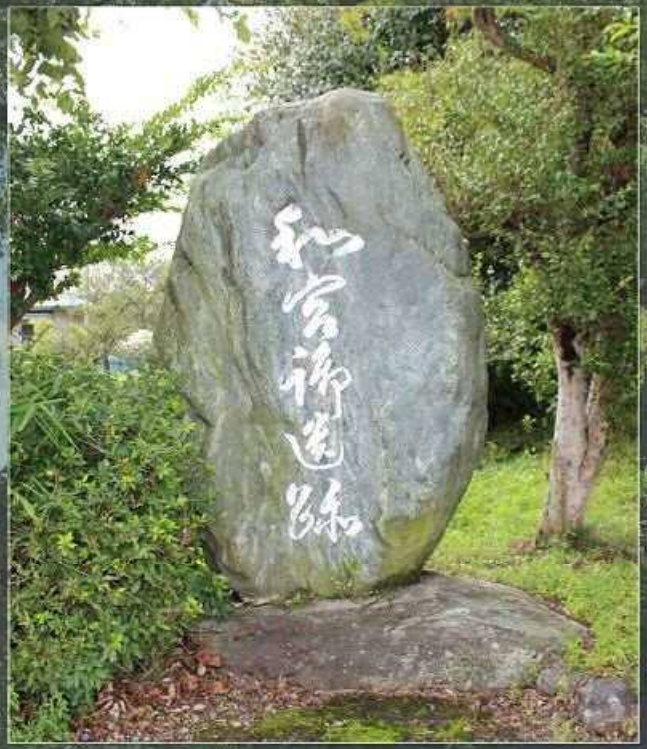
# ようこそ小簾紅園（おずこうえん）へ！和宮公園を案内します

水泉の南に詩碑があります。
呂久の詩人　馬淵観雲、本名、馬淵研造が、
建立しました。
11歳の時　宮様の降嫁の行列をお迎えした観雲は、
自らを犠牲にして国を救うために尽くされた宮様の
遺徳を後世に残そうと、自費でこの碑を建立しました。
病に伏していた観雲は完成を見届け、83歳の生涯
を閉じました。
この観雲の詩には、村人の宮様への思いと遺跡造営
の願いも詠まれています。

ちょっと気になるまち 岐阜 みずほ mizuho

# ようこそ小簾紅園（おずこうえん）へ！和宮公園を案内します






小簾紅園の西入口に、門標碑があります。
小簾紅園の建設の中心となった市内の森地区出身の田中捨身（しゃじん）は、歌碑建立のために中央において政財界に大きな力を発揮しました。
この門標「和宮御遺跡」は捨身の筆です。

ちょっと気になるまち 岐阜 みずほ mizuho

# ようこそ小簾紅園（おずこうえん）へ！和宮公園を案内します

遺跡の造営以来、和宮例祭は毎年、
春と秋に行われてきました。
節目となる宮様100回忌　昭和51年の
秋の例祭には秩父宮妃殿下のご臨席を
賜り盛大に開催されました。
その記念碑が、主碑の北側にあります。

ちょっと気になるまち
岐阜 みずほ
mizuho

# ようこそ小簾紅園（おずこうえん）へ！和宮公園を案内します

また、昭和63年の秋の例祭には、
第18代徳川宗家御内儀（ごないぎ）　徳川幸子様に
ご出席いただきました。
その記念碑は主碑登り口の傍らにあります。

# ようこそ小簾紅園（おずこうえん）へ！和宮公園を案内します

そして、宮様の遺徳を偲んだ詩碑
「一首泣郷（るいこう）」西脇関風（かんぷう）作があります。
秋の例祭には毎年、詩吟保存会の会員により献吟されています。

その他にもいくつかの碑があります。
小簾紅園休憩所にある「小簾紅園の案内」資料を参考にして紅園を散策してみてください。